

安足地域水稲技術情報 No. 3

令和5(2023)年8月10日
安足農業振興事務所

高温が続いており、米の品質低下が懸念されます。

- 間断かん水を継続しましょう！
- 落水は出穂後30日以降としましょう！

1 今後の気象と注意点

気象庁の1か月予報(8月10日発表)によると、向こう1か月の平均気温は高い確率80%、降水量は平年並又は多い確率ともに40%、日照時間は平年並である確率40%という予報が出されています。

普通植では、現在、幼穂伸長期から出穂期(直前)の時期です。出穂期以降も高温が続くと、白未熟粒や胴割米の発生が増加してしまい、米の品質が低下してしまいます。品質低下を防ぐため、適切な水管理を行いましょう。

表1 関東甲信地方の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(8月10日気象庁発表)

気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)			
気温	関東甲信地方	向こう1か月 08/12~09/11	10 10 80
		1週目 08/12~08/18	10 30 60
		2週目 08/19~08/25	10 10 80
		3~4週目 08/26~09/08	10 40 50
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 08/12~09/11	20 40 40
日照時間	関東甲信地方	向こう1か月 08/12~09/11	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

写真 玄米のタイプ

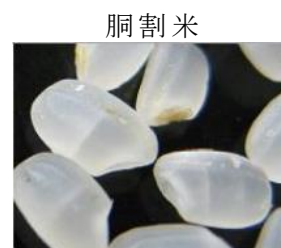
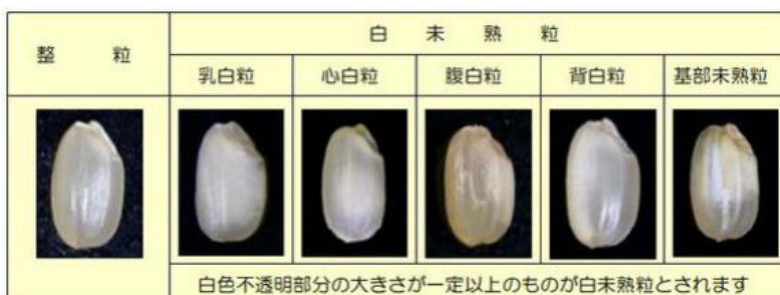


表2 水稻生育診断ほの調査結果(8月3日調査)

品種：とちぎの星 移植日：6月16日	本年	前年
草丈(cm)	80.2	84.7
茎数(本/m ²)	457	376
葉齡	12.3	11.8
葉色(葉色板)	4.3	3.9
(参考)出穂期	-	8月19日

2 これからの作業のポイント

(1) ほ場の水を切らさないように注意しましょう。

普通植では、現在、幼穂伸長期から出穂期(直前)の時期です。この時期は花粉が形成され、幼穂が伸長する時期であるため、水が不足すると花粉の不稔や、穂の抽出が妨げられてしまいます。土壌表面が白く乾燥しないようにかん水を行いましょ。

また、出穂期から開花期は最も水を必要とする時期です。水を切らさないように注意しましょう。

(2) 間断かん水を継続しましょう。

気象庁の予報では、今後も気温が高いと予想されており、米の品質を低下させる白未熟粒や胴割米の発生が増加する可能性があります。白未熟粒や胴割米の発生を少なくするためには、ほ場内水温・地温を下げる事が重要です。足跡に水がたまっている程度まで自然落水し、気温が下がる夕方以降に入水する「間断かん水」を繰り返しましょう。可能であれば掛け流しかん水も有効です(水利条件に応じて実施してください)。



図 間断かん水のイメージ

【白未熟粒、胴割米の発生が増加しやすい基準温度】

白未熟粒・・・出穂後 20 日間の平均気温が 27℃以上

胴割米・・・出穂後 10 日間の最高気温の平均が 30℃以上、夜温が 25℃以上

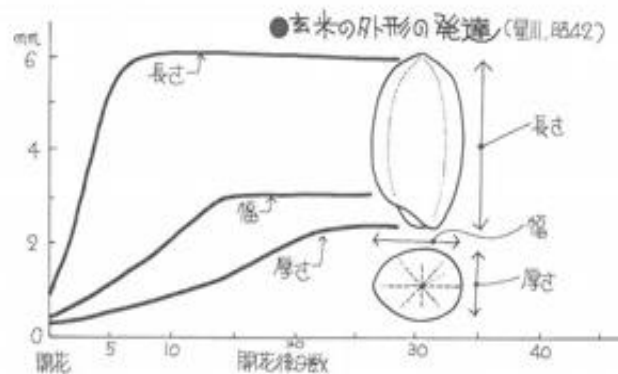
(3) 落水時期は出穂後 30 日以降としましょう。

早期の落水は、乳白粒や胴割米の発生を増加させ、品質・食味が低下してしまいます。登熟を高めるために間断かん水を継続し、落水時期は出穂後 30 日以降としましょう。収穫作業優先の早期落水は厳禁です。

注意！

玄米の大きさが決まるまでには、出穂後約 4 週間かかります。早く落水したほ場の米は厚さが不十分で、粒厚の薄い米になってしまいます。

高品質米生産のため、出穂後 30 日間は落水せずに、間断かん水で登熟させましょう。



出典：「安心イネづくり」（農文協）

～農作業中の事故防止のため、熱中症対策をしましょう～

- ① 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行う。
- ② 熱中症予防グッズを活用する。
- ③ こまめな休憩、水分補給を行う。
- ④ 作業は複数で行い、体調に異常がないか確認し合う。

農薬を使用するときは、ラベルをよく読み使用方法を守りましょう

問い合わせ先

安足農業振興事務所 経営普及部 農畜産課

TEL: 0283-23-1431

URL: <https://www.pref.tochigi.lg.jp/g58/index.html>